

若者のアイデア生かそう

ミカン箱デザイン一新

静岡県立浜松湖北高が校外販売



リニューアルした3*箱や袋でミカンを販売する生徒ら

静岡県立浜松湖北高校は11月下旬、浜松市の認定こども園「あそびごども園浜松」で、同校で生徒が栽培した早生ミカンや加工品を販売した。校外での販売実習は昨年以降の3回目。本日はミカン箱をリニューアルし、若い世代をターゲットに据えた販売をした。

昨年、地元で販売し、完売するなど好評だった。ただ、高齢者の購入が多く、本年は若い世代の購買促進を狙った。

今回は、ミカン箱を5*から3*に小さくして、手土産にしやすいよう取っ手を付け、「ミカンの文字を入れないなど、デザインを一新した。

デザインした産業マネジメント1科（農業科）3年の宮本楓さんは「写真に撮ってきれいで、手に取りやすくてかわいいデザインにした」と話す。

同科が栽培したミカン25箱（1箱3*）と12

0袋（1袋700*）、ミカンを使ったマフィン104個、ジャム（1個185*）78個を販売。産業マネジメント1科（商業科）の生徒が接客・販売し、園児や保護者らでにぎわい、完売した。3*箱についてのアンケートも実施した。

販売実習には、J Aバンク静岡アグリサポートプログラム担い手育成支援事業の助成が活用された。